

便利な時代になりました。スマートフォンやタブレット端末の普及でみんなが小型パソコンを持ち歩いているようなものです。電話、メールだけでなく、気になったことはすぐにインターネットで検索、暇になったらどこでもゲーム、などなど。・・・しかし、大人には便利なものでも、**安易に子どもに持たせないでください。**



子どもたちにとっては、まず「**電磁波**」が心配です。

携帯電話でも電磁波の影響が心配されていましたが、スマートフォンはさらに強い電磁波が出ているそうです。この電磁波の影響により、「小児白血病を誘発する危険があり、携帯電話を使用している子どもは脳腫瘍にかかるリスクが4倍も高くなる」とか「脳腫瘍になる率が2倍になり、10年以上頻繁に使用した人では更に3倍から4倍にまで高まる」、あるいは「妊娠中の母親の携帯電話が、子どもの行動障害のリスクを高める」などとも言われています。特に子どもには影響が出やすく、海外では「16歳以下の子どもは携帯電話の使用を控えるべき」と勧告しているところもあるそうです。

また、電磁波だけでなく、**インターネットは便利な反面、有害な情報であっても容易に手に入ってしまったたり、事件に巻き込まれる可能性も少なくありません。**

大人は危険性を知って対処しながら、うまく付き合っていく方法を学ばなければなりません。成長ざかりの子どもたちには、特に就学前の子どもたちには、「まだ必要ないもの」として、近づけないことが何よりです。

子ども向けの「アプリ」なんかもたくさん出ています。「お絵かきアプリ」、「絵本アプリ」、「知育アプリ」、「いないいないばあ」や「しつけアプリ」と呼ばれるものまで。わざわざスマホでする必要のないものばかりです。ひどいものになると以前にも紹介したことのある『鬼から電話』など、虐待まがいの“脅しアプリ”まであります。しかも、お父さんがそうしたアプリを使って子どもを怖がらせている場面を、お母さんまで一緒になっておもしろがって撮影し、インターネット上にUPするなど、「これ、虐待でしょう。」と言いたくなるような理解し難い動画もインターネット上にはたくさんあります。心から安心して頼るべき親から、そのような仕打ちを受けている子どもの気持ちを考えると胸が痛みます。

スマホだけでなく、最近の家庭用ゲーム機には、「チャット機能」と呼ばれるインターネットでつながった人たちと会話ができる機能のついたものが出てきています。就学前の子どもはあまりしないと思いますが、もう少し大きくなると小学生でも興味を持って使い始める可能性があります。パソコン、スマホなどでも同様ですが、離れたところに住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんなど、特定のごく限られた人と連絡を取るだけなら良いのですが、**不特定多数の人と容易につながってしまうような機能は、多くの危険が潜んでおり、子どもだけで使うと、さまざまな事件に巻き込まれる可能性が高い**ということをもっと大人が知っていなければなりません。

まずは大人がしっかり勉強しなければなりませんね。